

1 単元名 Unit 8 ナンシーに会いに

2 単元の目標

- 疑問詞や代名詞を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 尋ねられたことに対して適切に応答している。  
(外国語表現の能力)
- 本文を聞いたり読んだりして、その内容を理解している。  
(外国語理解の能力)
- 代名詞や疑問詞の用法を身に付け、運用している。  
(言語や文化についての知識・理解)

3 単元の指導について

(1) 教材観

本単元は、さくら、一郎、バッキー、ケビンが冬休みにサンフランシスコに行くという設定で、日本を出発し、サンフランシスコの空港に降り立つ場面までの対話が扱われている。本単元では、where, whose や代名詞の用法について学習する。疑問詞の用法を理解し、対話活動を行うことで、今まで学習してきた yes-no 疑問文よりも相手との会話の幅を広げられるようにしたい。また、代名詞の文の構造を理解することで、英語の正しい語順の知識を身に付けることができる。日本語との語順の違いを理解することで、これまで学習した表現の復習をし、今後の言語活動の充実を図りたい。

(2) 生徒の実態 (男\* 女\* 計\*)

平成\*年\*月\*日実施

実態調査	1	who を使った疑問文の文構造を理解している生徒数	*人
	2	what time を使った疑問文の文構造を理解している生徒数	*人
	3	what を使った疑問文の文構造を理解している生徒数	*人
	4	which を使った疑問文の文構造を理解している生徒数	*人
意識調査	1	英語の授業で身につけたい力はどんな力ですか。(複数回答可) 聞く力 *人      話す力 *人      読む力 *人      書く力 *人	
	2	英語の授業内容を理解している。 そう思う *人      どちらかというと思う *人 どちらかというと思わない *人      そう思わない *人	
	3	グループワークで、英語の関心や意欲が高まった。 そう思う *人      どちらかというと思う *人      そう思わない *人	
	4	グループワークは英語を理解する助けになっている。 そう思う *人      どちらかというと思う *人      そう思わない *人	
	5	グループワークで身についた力やよかった点を書いてください。(記述) ・説明する力   ・協力する力   ・質問する力   ・皆で1つのことに挑戦する力 ・教えることでより理解できていると感じること   ・互いに学び合えたこと ・発音が正しいか確認できること   ・英語を使う努力をしたこと	

実態調査から、疑問詞を用いた問題の正答率を見ても、授業の理解度に不安を抱えている生徒が3割近くいることがわかる。場面を想定して、どの疑問詞を使っていいかわからないという生徒もいれば、疑問詞の後に続く語順で間違いをする生徒もいた。2学期からは、三人称を伴い動詞が変化する疑問文も学習したこともあり、理解が十分にできていない生徒もいる。本単元では新たに疑問詞を用いた英文を扱うが、学習形態を工夫したり、机間指導を丁寧に行ったりして、定着を図りたい。

意識調査から、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」のどの領域においても意欲が高いことがわかる。自分の気持ちを表現することに楽しさを感じているため、言語活動を活発に行う生徒が多い。一方で、授業内容の理解が不十分で、苦手意識をもっている生徒もいる。

協力してタスクを解決する活動を、9月から行ってきた。生徒は前向きに協働学習に取り組んでおり、皆で1つのことに挑戦する意義を理解している。はじめはわからないことを質問するのも恥ずかしがっていたが、質問し、説明することが自らの英語力の向上につながることを理解してからは、積極的に活動することができるようになってきた。調査からは前向きに取り組む生徒が大半なので、今後も協働学習を継続していきたい。

(3) 指導観

本単元では、where, whose を言語材料として扱うが、これらの言語活動では、ペンや鉛筆などの具体物を用いた対話活動ができる。前置詞の使用を合わせて学習し、英語を使うことがより身近に感じられる言語活動を心がけ、表現意欲を高めたい。

本時の発問の内容は、前時までに学習した内容を、タスクとしてもう一度取り上げるようになっていいる。スパイラルに学習することで、表現の定着を図りたい。また、発展的な課題には、既習事項を使用して、相手を紹介する内容を設定した。代名詞の所有格や目的格を扱い、語順に慣れさせるとともに、教科書の本文をモデルとして、使用場面をイメージできるようにしたい。また、代名詞の使い方は正しい語順の理解が必要になるので、掲示物やプレゼンテーションを通して、繰り返し学習に取り組ませたい。学習形態としては協働学習を行い、グループで協力し合って課題解決することで、学習への意欲を高めたい。英語を理解するのに時間がかかる生徒がいるグループには、グループで課題解決できる意図的なグループ編成をすることで対応する。

#### 4 指導計画（6時間扱い）

時間	学習活動・内容	評価規準
1	・Where を使って、もののありかについて尋ねたり、答えたりする。	・Where の文とその応答の形・意味・用法を理解している。 （言語や文化についての知識・理解）
2	・Whose を使って、ものの持ち主を尋ねたり、答えたりする。	・本文を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。 （外国語理解の能力）
3	・代名詞を使って、人の紹介をする。	・尋ねられたことに対して適切に応答することができる。 （外国語表現の能力）
4	・代名詞の目的格の形・意味・用法を理解する。	・代名詞の目的格の形・意味・用法を理解している。 （言語や文化についての知識・理解）
5	・Unit 8 の重要表現について復習し、理解を確かめる。	・ペアワークやグループワークにおいて、間違えることを恐れず話している。 （コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
6 本時	・Unit 8 の重要表現について復習し、理解を確かめる。	・Where, Whose, 代名詞の文とその応答の形・意味・用法を理解している。 （言語や文化についての知識・理解）

#### 5 本時の指導

##### (1) ねらい

○ Where, Whose, 代名詞の文とその応答の形・意味・用法を理解する。（言語や文化についての知識・理解）

##### (2) 準備・資料

タスクカード、Q&Aカード、テレビ、パソコン、掲示物、ストップウォッチ、Supporterタグ、振り返りカード

##### (3) 展開

学習活動・内容	支援の手立て・評価（※評価）		
	T1	T2	ALT
1 英語で簡単な挨拶をする。	・元気に挨拶をして、英語を学習する雰囲気を作る。		
2 帯活動をする。 ・Where を使った対話活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit 8 でWhere やWhose といった疑問詞の使い方が紹介される。帯活動で取り上げることで、表現に慣れることができるようにする。</li> <li>・流暢に音読して1回終わるか終わらないかの40秒でペアを変え、それを3回繰り返す。4回目は自由に話す。言語の実際の使用場面をイメージして、表現が使えるようになることを意図していることを伝える。</li> <li>・タイマーを使っ   ・音読につまずきのある生徒と共に進行する。   に発声し、支援する。</li> </ul>		
3 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">タスクをクリアして、Unit 8 の表現を使うことができるようにしましょう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は、Unit 8 のまとめで習った重要表現を使うことが目的であることを伝える。</li> </ul>		
4 プレゼンテーションを見て、既習事項の復習や本時の活動を理解する。 (1) 疑問詞の使い方を復習する。 (2) 代名詞の使い方を復習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の見通しが立てられるように、プレゼンテーションを使って説明をする。T1 とALT がUnit 8 の重要表現の使い方のデモンストレーションを行う。本時のタスクを「やればできそうだ」という意欲をもつことができるようにする。</li> </ul>		

<p>(3) 本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>5 グループごとにタスクを解決する。</p> <p>(1) タスクを全員で確認する。</p> <p>(2) ALT にチェックを受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タスクは6つ。</li> <li>・1人1人くじを引き,その番号のタスクを答える。</li> <li>・制限時間内に答えられないと,席に戻る。</li> <li>・できるまで何度でも挑戦できる</li> </ul> <p>(3) ALT のチェックに合格したら,次のタスクに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードを使って,英語学習で重要なアイコンタクトやジェスチャーなどを確認し,活動を進めるように伝える。</li> <li>・自己表現を問うタスクでは,多くの表現方法を知るために,辞書を使うことを助言する。</li> <li>・グループで活動することで,協力し合って学習する雰囲気をつくる。活動が進まないグループには,T1,T2が教科書の例文やノートを参考にするように助言する。</li> <li>・代名詞を含む文の語順が正しいかを確認するために,英語ファイルや文構造の拡大コピーを参考にしてもよいことを伝える。</li> <li>・時間制限のあるタスクには,T1やT2がストップウォッチを使って音読の確認を行い,生徒が自信をもってタスクのチェックを受けられるようにする。</li> <li>・ALT のチェックに合格できなかった場合は,T1がその原因を確認する。文構造に誤りがある場合は教科書やノート,掲示物などで支援する。</li> <li>・終わったグループは,「Supporter」として,他のグループを助ける役割をするように促す。</li> </ul> <p>※ Where, Whose, 代名詞の文とその応答の形・意味・用法を理解している。(言語や文化についての知識・理解)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">代名詞や疑問詞を使って,対話活動をしている</div>
<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードに本時の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識しながら,振り返りを記入し,本時の学習を見直す。</li> </ul>
<p>7 挨拶をする。</p>	